

2019年10月25日

大阪産業大学附属高校

2018年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校

学校関係者評価委員会

10月25日に学校関係者評価委員会（8名全員出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭、文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2018年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果についての分析報告、学校評価の報告を受けて各委員から学校への質問、感想や提言がありました。学校からの「生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいる様子である」というアンケートの結果報告に対して、委員からは学習の基礎的な力は高校段階までに身につくので、学校にはこれまでの教育成果に加えて、アクティブラーニングを積極的に活用するなど、生徒の主体性やコミュニケーション能力の伸長にも力を入れてもらいたいとの提言がありました。また、学校の保育実習などの取り組みについては、今後もさらにキャリア教育を発展させてもらいたいとの意見がありました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者代表から

学校が楽しく、授業が楽しいと子どもが言っており、成績が入学時に比べると大幅に伸び、附属高校に入学して本当に良かったという感想がありました。また、2019年度より導入するICT教育を教員にどのように推進していくのかという質問に、学校から推進方法について説明がありました。

B. 保護者OB代表から

これからますます多様化していく社会の中で、子どもたちにも多様化、個性化が必要となってくるので、学校には子どもたちの可能性を引き出す教育をおこなってもらい、それと並行して学習する意味、進学する意味もしっかり教えてもらいたいという意見がありました。

C. 同窓生代表から

進学を希望しているのに、希望が叶わない生徒はどれくらいいるのかという質問への回答で、学校から、最近では就職が叶わず、進学へと進路を変更する生徒もいるという状況が報告されました。また、昨今、学校不適応の生徒が増加している社会状況の中で、高校では不登校の生徒はどれくらいいるのかという質問があり、学校から回答がありました。

D. 地域住民代表から

地域の運動会に高校のチアリーディング部が演技を披露しにきてくれたり、他のクラブも地域と関わり、貢献してくれていることに感謝しているとの意見がありました。

E. 大阪産業大学の教員から

学校に対して、アンケートの結果を踏まえて、生徒の学力伸長や様々な課題解決に結びつけていただきたいと提言がありました。大学でもアンケートをおこなって、浮き彫りになった課題を解決に結びつけるよう取り組んでおり、高校も大学とともに取り組みが進むようにしていきたいとの期待が語られました。